國學院大學学術情報リポジトリ

フィンランドで編纂された日本語教科書の名詞：『Elävää japania』を中心に

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 本間, 美奈子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000946

フィンランドで編纂された日本語教科書の名詞
－『Elävää japania』を中心に－

本間　美奈子

キーワード：フィンランド　初級日本語教科書　分類語彙表　基本性の相違
編纂地に特化した語

１．はじめに

海外で編纂された初級日本語教科書の提示語を調査すると、編纂地に特化した語が含まれており、日本国内で編纂された教科書とは差異が見られる。編纂地に特化した語は教育対象者が実際に発信する場面において実用性があると考えられるが、提示語の実態は明らかになっていない。そこで、本稿ではフィンランドで編纂された日本語教科書の提示語を調査し、語に『分類語彙表－増補改訂版（以下『分類語彙表』とする）』のコードを付与して意味分野に分類した語彙表を作成し、中道真木男（1983）が示した３点の基本性を参照し、名詞の特徴を考察する。

非日本語母語話者に対する日本語教育で使用される教科書には検定制度がない。したがって語彙表や語数に標準はなく、編纂者は編纂目的、教育対象者、学習段階などに基づいて教科書に提示する語を主観的に選択している。そこで、複数の資料を調査し、共通性や使用頻度に基づいて客観的に基本語を選定しようという試みがなされた。しかし、『日本語教育基本語彙七種比較対照表（以下『七種対照』とする）』は、海外で選定された語彙表を含む既存の７種の語彙表を対照して語彙表間の共通性が低いことを明らかにし、「いずれの日本語教育にも向くような、またいずれの日本語教育にもその基礎となるような基本語彙を選定することは、非常な困難を伴うことが予想される」と指摘し、「教育目的別・教育対象者別・専門別等に、基本語彙を選定する試

みもなされるべきものと考える。あるいは、その方がより具体的で、有効性の高いものであるのかも知れない」と結論付けた。海外で編纂された教科書は特定の教育対象者のために開発されたものであり、提示語の選択の仕方も異なると考えられる。提示語の中心となる名詞の特徴を明らかにするために、差異に着目した調査が必要である。

本間美奈子（2018）では『JAPANIN KIELI（以下『JK』とする）』の名詞の特徴を考察したが、さらに調査を進め、最終的には複数の教科書の語彙表を対照できるようにしたい。本稿ではアールト大学の日本語講師 Okura Junichiro が編纂した『Elävää japania（以下『EJ』とする）』を資料として調査を行う。調査結果は、日本語学習辞典編纂資料として活用する。

なお、本稿では日本語教育の教材として編纂されたテキストを「教科書」と呼ぶこととする。

2．考察の観点となる基本性

上述のように、『七種対照』の調査で語彙表間の共通性が低いことが明らかになった。調査で収集される語は厖大であり、単語単位では考察が十分できない状態となる。名詞の特徴を考察するためには何らかの観点を加えて語を分類する必要がある。中道真木男（1983）は『七種対照』の語彙表間のくい違いの大きさを、「「初級」の範囲に対する認識の違いといったことのほかに、(略)、「基本度ではない基本性」の違いが十分に意識されないまま、漠然とした「凡用（ママ）」基本語彙として提示されたものが多いため」と指摘したうえで、日本語教育における語の基本性を次のように３分割して示した。

①文型ステップ的基本性：基本文型を構成するために必要な語彙であること。

②学習過程向（ママ）基本性：教室内で基本的な文型の扱い方を学習する際に、適当な実例として文型の中に挿入して用いられるのに適した語であること。

③実用的基本性：学習者が教室外の実践の場で接する日本語の中で多く用いられ、特に話題のキーワードとなることの多いものであること。

初級日本語教科書には文型の導入と定着練習という学習構造があり、それが語彙構造にも反映されるため基本性を分けたことは妥当と言える。これを観点に用いることで、最終的には提示語を基幹語、挿入語、実用語に分類することができる。

まず、①に分類される語は定着練習が図られるため教科書における使用度は高くなるが、教科書ごとに扱う文型が異なるため、資料間の共通度は低い場合があると推測される。次に、②に分類される語は文型や例文に複数回提示されるため、使用度は高くなる。しかし、初級教科書では③として導入された語が②として活用されるため、②と③の線引きが難しい。本稿では文体差を重要視する調査資料の編纂方針に鑑み、②と③の判定基準を分類項目内の平均使用率とした。たとえば、中項目「言語」分類項目【言語】に分類される提示語として日本語19、英語12、ロシア語３、フィンランド語２、フランス語１、スペイン語１が収集された場合、分類項目【言語】内の平均使用率が6.33となるため、英語は②、ロシア語は③として判定する。複数の教科書を対照する際には、判定基準を再検討したい。

３．資料『Elävää japania』

本稿の調査資料は、アールト大学の日本語講師 Okura Junichiro が2011年に出版した全７課260ページの初級日本語教科書『Elävää japania』である。現在第２巻まで出版されているが、本稿では第１巻を取りあげる。『EJ』の目次は次のようになっている。

『Eläväät japania』第１巻の目次

課	ページ
はじめに：日本語の特徴	5
ひらがな・カタカナ	9
第1課：あいさつ	21
第2課：がくせいがいる	45
第3課：ぼくはがくせいだ	73
第4課：はるはあたたか	113
第5課：やわらあゆみさんです	143
第6課：いっしゅうかん	173
第7課：さくらはどこに	213
たんご	241

編纂者はヘルシンキ大学の人文学部を卒業し、1984年にアールト大学の前身であるヘルシンキ工科大学の日本語講師に採用され、1987年には語学センターの日本語主任常勤講師となった。また、2004年にフィンランド・日本語日本文化教師会を設立し、初代会長となった。日本語教育の発展に尽力し、現在は名誉会長となっている。

編纂者は1990年代後半に講座の受講者が急増したことからフィンランドに特化した教科書の開発に着手、授業で教材として使用しながら学習段階を調整し、市販版として『EJ』を出版した。『EJ』はフィンランド人の大人を教育対象者とした会話中心の発信型教科書であるが、言語形式の相違に着目して編纂されたと考えられる。たとえば、フィンランド語は待遇や場面によることばの使い分けが比較的小さい言語であるが、初級段階から文体差のある例文を複数提示し、日本語の表現形式を習得できるよう計画されている。また、教育対象者の関心が高い話題を取りあげ、場面設定も実践に応用できるよう図られている。アールト大学では中級を終了した段階で日本語能力試験 N1 に合格する学生が多く、初級終了後の継続率も高いと言われている。

４．名詞調査の概要

名詞の調査は次のような手順で行った。

まず、『EJ』の各課の文型、例文、練習問題から文を収集し、原則として単純語を単位に文から名詞を抽出して収集した。語を意味の側面から分類する

ため、収集する語は文中に提示されている名詞とした。

次に、収集した名詞に『分類語彙表』のコードを付与し、意味分野ごとに分類した語彙表を作成した。『分類語彙表』のコードを使用することにより、部門、中項目、分類項目の順に語の意味階層が一覧できるうえ、教科書を対照する際に同じ意味分野の語の異同が把握しやすいという利点がある。

なお、本稿の語彙表では紙面の都合でコードを表示しないため、一見すると中項目、分類項目、提示した名詞の意味分野が一致しないと思われる場合がある。本稿では『分類語彙表』の上下概念の問題には立ち入らず、コードに従って分類することとする。また『分類語彙表』に分類項目のない施設名や社名は、実用的な語として基本性があると判断し、便宜的に固有人名に分類した。

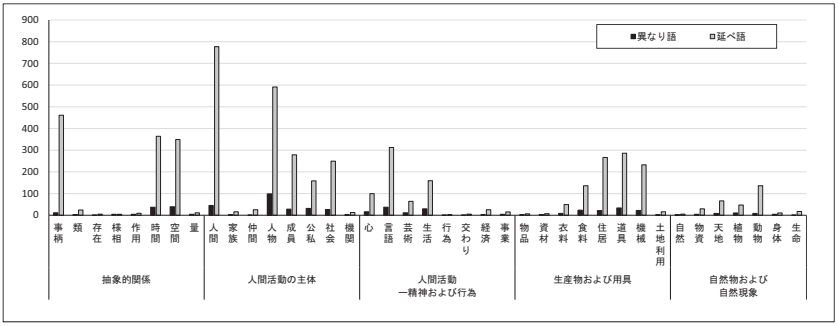
5．調査結果と考察

抽出収集した名詞に『分類語彙表』のコードを付与したところ、異なり語数は591となった。部門ごとの語数は次のようになる。

抽象的関係	103語
人間活動の主体	234語
人間活動－精神および行為	102語
生産物および用具	115語
自然物および自然現象	37語

『EJ』の異なり語数591に対し、延べ語数は5,322であった。平均使用率は9.0であり、導入した語を反復提示していることが数の上からもうかがえる。部門、中項目ごとの異なり語数、延べ語数をグラフにすると次のようになる。なお、『EJ』において提示語のない中項目はグラフや表に掲げないこととする。

グラフ１：『Eläväät japania』の部門・中項目ごとの異なり語と述べ語



以下、部門ごとに中項目の語数・平均使用率を表にして示し、意味分野に分類した語彙表「名詞一覧」を調査結果として示す。名詞一覧の分類項目は、使用度の高い順に語を配置する。なお、本稿では紙面の都合で、特色のある語を抜粋して考察する。

5-1. 抽象的関係

「抽象的関係」の名詞103語は、『EJ』の異なり語数591の17.4％を占めている。平均使用率の高い順に中項目を挙げると次表のようになる。

表１：抽象的関係の中項目の語数

中項目	事柄	時間	空間	類	存在	量	作用	様相	合計
異なり語	11	37	39	3	1	4	4	4	103
述べ語	461	364	349	24	5	11	9	4	1227
平均使用率	41.9	9.84	8.95	8	5	2.75	2.25	1	11.91

『EJ』の全中項目のうち最も平均使用率が高い中項目は「事柄」の41.9であった。本間美奈子（2018）で行った『JK』の調査でも、最も平均使用率が高い中項目は「事柄」の17.8であった。「事柄」に分類される語が日本語教科書において多用されることが確認できた。

表２：抽象的関係の名詞一覧

中項目	【分類項目】見出し語・使用度数
事柄	【事柄】の101、【こそあど・他】これ100　何73　それ69　あれ48　どれ23　何か23　何(なん)14、【真偽・是非】本当1、【本体・代理】ファイル7　ほか2
時間	【時機・時刻】いつ2、【毎日・毎度】毎日8　毎晩6　毎朝3　毎週2　毎月2　毎年2、【現代】現代1、【季節】冬25　春22　夏15　秋12、【週・週日】月曜日18　木曜日16　金曜日15　火曜日14　土曜日14　日曜日12　水曜日11　週末2、【日】日5　休み3　誕生日2、【朝晩】朝26　夕方22　夜15　番4　昼4　一日1、【現在】今日(きょう)13　今日(こんにち)12　今晩3　今1　ただいま1、【未来】明日3、【時間的前後】後24　前23
空間	【空間・場所】どこ58　ここ46　あそこ42　そこ35　どこか4　ところ2、【境・間】間(あいだ)7、【方向・方角】どちら15　向かい7　こちら5　ほう5　どっち2　はす向かい2　向こう2、【左右・前後・たてよこ】前9　横8　後ろ6　右6　左4　右手4　左手3　斜め2、【上下】上3　下2、【中・隅・端】中央3　中心2　真中2、【面・側・表裏】裏2　左側2　向こう側2　表1　右側1、【内外】中(なか)23　外(そと)7、【奥・底・陰】億5、【ふち・そば・まわり・沿い】隣9　そば5　辺(へん)4　近く2
類	【因果】おかげ6、【理由・目的・証拠】訳3、【異同・類似】イコール15
存在	【成立】国立5
量	【数記号(一二三)】いち5、【助数接辞】週間3　日(にち)2　キロ1
作用	【往復】帰り3、【統一・組み合わせ】一緒1、【防止・妨害・回避】邪魔4、【増減・補充】満員1
様相	【難易・安危】安全1　不便1　便利1　楽1

「抽象的関係」で最も使用度が高い語は、中項目「事柄」分類項目【事柄】の体言の代用となる「の」の101であった。中項目「事柄」「空間」には指示詞があるが、これらは文型を構成する語に分類される。文型を構成する語は、初級日本語教科書の学習構造上最も重要な語と位置付けられる。

基本性が等しい語でも教科書での有用性には違いが見られる。たとえば、中項目「時間」分類項目【週・週日】に曜日があるが、月曜日が使用度18であるのに対し水曜日は11となっている。本間美奈子（2018）では日曜日の使用度が最も高かったが、教科書で取りあげる話題が影響しているのであって、使用度が高い曜日の基本性や重要性が、他の曜日より高いというわけではない。

なお、部門「抽象的関係」には編纂地に特化した語が見られなかった。

5-2. 人間活動の主体

「人間活動の主体」の名詞234語は、『EJ』の異なり語数591の39.6％を占めている。平均使用率の高い順に中項目を挙げると次表のようになる。

表３：人間活動の主体の中項目の語数

中項目	人間	仲間	成員	社会	家族	機関	人物	公私	合計
異なり語	45	1	28	26	2	2	99	31	234
述べ語	777	25	278	249	16	12	591	158	2106
平均使用率	17.27	25	9.93	9.58	8	6	5.97	5.1	9

「人間活動の主体」は全ての中項目の平均使用率が５以上あり、『EJ』の中では例文に活用しやすい語が集まった部門と言える。

表４：人間活動の主体の名詞一覧

中項目	【分類項目】見出し語・使用度数
人間	【人間】人(ひと)19　人(ーじん)6　家(ーか)1、【われ・なれ・かれ】私127　誰80　僕54　あなた49　その人48　この人45　あの人35　私達31　君24　あなた達18　あの人達18　その人達17　誰か16　彼15　どの人13　彼女12　あの片11　この方11　その片10　この人達8　みんな8　君達7　どなた7　僕達6　どの方5　どの方々5　あなた方4　あの方々4　その方々4　この方々3　皆さん3　あの方達2　彼ら2　この方達2　その方達2　どの人達2　彼女達1、【男女】女の人10　男の人9　男の子8　女の子7、【老少】大人8
仲間	【友・なじみ】ともだち25
成員	【成員・職】会社員12　銀行員9　駅員8　乗務員1、【専門的・義実的職業】先生31　看護師16　医者15　技師13　看護婦5　エンジニア4　お相撲さん1、【管理的・書記的職業】車掌5　事務員3、【運輸業】運転手16　パイロット12　クルー1、【職人】大工14、【保安サービス】お巡りさん11、【サービス】アテンダント3　スチュワーデス2、【学徒】学生72　中学生6　高校生5　大学生5　留学生4　小学生2、【軍人】将軍1、【その他の仕手】チャンピオン1
社会	【社会・世界】社会3、【社寺・学校】学校49　大学39　高校3、【事務所・市場・駅など】会社11　駅9　銀行6　センター3　ターミナル2　空港1、【店・旅館・病院・劇場など】公園33　図書館18　薬局13　レストラン13　キオスク9　スーパー8　食堂6　劇場5　スーパーマーケット3　デパート3　美術館3　喫茶店2　ディスコ2　病院2　店2　本屋1
家族	【夫婦】主人1、【子・子孫】子ども15
機関	【公共機関】郵便局10、【議会】国会2
人物	【人種・民族】日本人18　フィンランド人15　スウェーデン人8　イギリス人7　アメリカ人4　ドイツ人4　スペイン人3　フランス人3　ロシア人3　エストニア人2　中国人2　アイスランド人1　イタリア人1　オーストラリア人1　デンマーク人1　ノルウェー人1　ハンガリー人1　メキシコ人1、【人物】選手2、【固有人名】山田58　イスモ35　マイヤ34　ミア21　トミ18　ニーナ17　鈴木16　本田16　加藤14　サリ14　ティモ14　かおり13　カッレ13　アンッティ12　かずお10　ティーナ10　さくら9　アンネ8　いちろう8　佐藤8　村上8　やわら8　アンナ7　ハンナ6　ペッカ6　みどり6　ヴィッレ6　アイリ5　トペリウス5　ニエミ5　山本5　ラウリ5　キヴィ4　ハンネレ4　ポンジョ4　ミッコ4　ユッシ4　ラシパラッチ4　あゆみ3　エルッキ3　キアスマ3　ジェイムズ3　スオミネン3　田中3　トンミ3　ハラショー3　パリジェンヌ3　ハロネン3　アテネウム2　川田2　木村2　ケッコネン2　スヴェンソン2　フランク2　マンネルヘイム2　アールト1　アレクシス1　オリヴィア1　カイ1　カルメン1　かわもと1　サブマリーンズ1　ジェイン1　セイヤ1　チン1　トトロ1　トミー1　ノゥルデン1　ハーヴィス・アマンダ1　ピュエル1　フィンランディア1　フィンランディアタロ1　ペティ1　ペトリ1　ポッパネン1　ポンド1　みき1　レイヤ1　レーナ1　サトゥ1
公私	【家】家(うち)8、【郷里】国11　生まれ8、【都会・田舎】町10　大通り1、【政治的区画】国2、【固有地名】日本26　ヘルシ ンキ25　フィンランド19　東京10　エスプラナーディ8　オタニエミ3　カイサニエミ3　タンペレ3　ヴァンター2　トゥルク2　ハンコ2　ラップランド2　アメリカ1　イギリス1　イタリア1　エスポー1　大阪1　九州1　スウェーデン1　スコットランド1　スペイン1　ノルウェー1　ポルトガル1　ヨェーテボリ1　ロシア1

部門の中で最も平均使用率が高い中項目は「人間」であるが、分類項目【われ・なれ・かれ】は人称詞であり、文型を構成する語に分類される。対称を例に挙げると、単数があなた、君、複数があなた達、君達、あなた方のようにバリエーションが示されている。位相による人称詞の使い分けや待遇差を示すことで、表現形式の違いを習得させる意図があると考えられる。

中項目「人物」分類項目【固有人名】にはフィンランド人の姓名が多数見られる。姓名や会社名のような固有名詞は通常語彙表に提示しないが、広い意味で語彙教育に必要な語と捉えられるため収集した。音声と仮名の対応については教科書の「ひらがな・カタカナ」で示されているが、定着のために固有名詞を適宜提示しているものと考えられる。たとえば、「Pekka」のように同じ子音が連続する場合は「ペッカ」となり促音と対応することを確認させる効果がある。

中項目「公私」分類項目【固有地名】には編纂地の都市名が多数見られる。都市名も通常語彙表に提示しないが、音声と仮名の対応を認識させる意味合

いがあるうえ、教育対象者にとっても実用的な語であるため収集した。一方、本間美奈子（2018）の調査資料『JK』では日本の都市名を中心に提示しており、編纂地の都市名はヘルシンキのみであった。『JK』は、日本で編纂された教科書を参考資料として用いており、影響を受けたものと考えられる。教科書編纂時の参考資料は、提示方針に影響を及ぼすことがあるため、どのような参考資料を使用したか確認する必要がある。

中項目「社会」分類項目【店・旅館・病院・劇場など】のキオスクは駅や町中にある売店であり、編纂地に特化した語と言える。

5-3. 人間活動－精神および行為

「人間活動－精神および行為」の名詞102語は、『EJ』の異なり語数591の17.3%を占めている。平均使用率の高い順に中項目を挙げると次表のようになる。

表５：人間活動－精神および行為の中項目の語数

中項目	言語	経済	心	芸術	生活	交わり	事業	行為	合計
異なり語	37	3	16	11	29	1	4	1	102
述べ語	312	25	99	64	159	5	15	2	681
平均使用率	8.43	8.33	6.19	5.82	5.48	5	3.75	2	6.68

「人間活動－精神および行為」は、『EJ』の中で最も平均使用率が低い部門である。

表６：人間活動－精神および行為の名詞一覧

中項目	【分類項目】見出し語・使用度数
言語	【言語】日本語37　英語22　フランス語7　ロシア語6　国語5　フィンランド語4　ドイツ語3　中国語3　スペイン語2　ポルトガル語2　アラビア語1　イタリア語1　オランダ語1　ギリシャ語1　語1　チェコ語1　デンマーク語1　トルコ語1　ノルウェー語1　ハンガリー語1　モンゴル語1、【名】名前7　名字7　姓3、【文字】漢字1、【表・図・譜・式】地図18、【合図・挨拶】挨拶2、【伝達・報知】ニュース1、【問答】宿題18、【読み】読書10、【文章】レポート1、【文献・図書】本90　教科書20　辞書15　雑誌9　新聞3、【目録・暦】カレンダー5
経済	【資本・金銭】お金12、【売買】買い物11　ショッピング2
心	【心】気2、【飢渇・酔い・疲労・睡眠など】昼寝5、【感情・気分】機嫌5、【学習・習慣・記憶】勉強32　授業19　稽古8　練習8　レッスン4、【研究・試験・調査・検査など】試験2、【学問・学科】数学5　理科3　経済学2　工科1　政治学1　体育1　文学1
芸術	【文芸】日記7、【芸術・美術】絵9　漫画7　写真3　美術3、【音楽】歌9　音楽5　カラオケ1　ジェイポップ1、【演劇・映画】アニメ10、映画9
生活	【文化・歴史・風俗】歴史1、【労働・作業・休暇】夏休み6　仕事5　アルバイト3　お休み1、【食生活】ご飯30　お昼7　夕飯7　ご馳走5　乾杯4、【遊楽】趣味25　遊び2　生け花1　ダンス1　盆栽1、【旅・行楽】散歩5　魚釣り1　旅行1、【スポーツ】柔道17　ジョギング9　スポーツ7　サッカー5　スキー5　水泳3　アイスホッケー2　空手2　スカッシュ1　バドミントン1　野球1
交わり	【仲介】世話5
事業	【運輸】航空1、【染色・洗濯など】洗濯4　洗い物2、【掃除など】掃除8
行為	【身上】出身2

中項目「言語」分類項目【言語】には、ヨーロッパの言語が多く見られる

が、英語の使用度が22と突出している。英語は挿入語と判定される。また、分類項目【文献・図書】の本の使用度90に対し、具体的な本の種類を示す語の使用度は、教科書20、辞書15、雑誌９と低くなっている。本間美奈子（2018）でも本37に対し、字引４、教科書２、雑誌１、辞書１となっており、包摂関係の上位語が挿入語として多用されることが確認できた。

中項目「生活」分類項目【旅・行楽】の魚釣り、分類項目【スポーツ】の柔道、スキー、アイスホッケー、空手は編纂地に特化した語と言える。柔道、空手は日本のスポーツを提示したというより、編纂地で一般的なスポーツのひとつとして提示したものと考えられる。

5-4. 生産物および用具

「生産物および用具」の名詞115語は、『EJ』の異なり語数591の17.4％を占めている。平均使用率の高い順に中項目を挙げると次表のようになる。

表７：生産物および用具の中項目の語数

中項目	住居	機械	道具	土地利用	衣料	食料	資材	物品	合計
異なり語	21	22	33	2	8	23	3	3	115
述べ語	266	232	286	16	49	136	7	6	998
平均使用率	12.67	10.55	8.67	8	6.13	5.91	2.33	2	8.68

中項目「住居」「機械」は平均使用率が10を超えており、『EJ』の中でも使用度の高い項目と言える。

表８：生産物および用具の名詞一覧

中項目	【分類項目】見出し語・使用度数
住居	【住居】家（いえ）70、【家屋・建物】ビル4　議事堂2、【部屋・床・廊下・階段など】サウナ41　教室31　部屋27　ラボ5　キャビン4　キッチン2　台所2　ホール2　客室1、【屋根・柱、壁・窓・天井など】窓7、【タナ・台・壇など】本棚8、【戸・カーテン・敷物・畳など】カーテン5　ブラインド3、【家具】机20　イス15　風呂8　ロッカー5　テーブル4
機械	【鏡・レンズ・カメラ】眼鏡10　OHP3　カメラ1、【電気器具・部品】テレビ20　コンピュータ15　携帯8　ラジオ7　ビデオ6　テープレコーダー3　プレイヤー1、【機械・装置】機械3、【計器】計算機14　時計14　物差し9、【乗り物（陸上）】車40　バス34　オートバイ12　電 車8　タクシー11　地下鉄6　自転車6　市電1
道具	【箱など】筆箱16　ゴミ箱14　箱2、【袋・かばんなど】鞄20　財布13、【食器・調理器具】食器3、【文具】鉛筆20　黒板13　コンパス13　ペン13　万年筆13　消しゴム11　ホッチキス8　マーカー7　定規6　シャープペン5　ボールペン5　ボード4　シャープペンシル3　マジック2　マジックペン2、【日用品】鍵11　シャワー6、【刃物】鉛筆削り6　ハサミ4、【楽器・レコードなど】ピアノ7　ヴァイオリン6　レコード5　ＣＤ3、【遊具・置物・像など】像6、【標章・標識・旗など】掲示板12　ポスター11、【札・帳など】ノート16
土地利用	【地類（土地利用）】庭14、【道路・橋】通り2
衣料	【帽子・マスクなど】帽子7、【ネクタイ・帯・手袋・靴下など】靴下6　スカーフ6　手袋4、【履物】靴6、【雨具・日よけなど】傘12、【装身具】指輪6　ネックレス2
食料	【料理】パン12　日本料理7　寿司4　イタリア料理2　黒パン2　トースト2　日本食1　フィンランド料理1　フランス料理1　ロシア料理1、【魚・肉】魚16　肉2、【菓子】アイスクリーム7、【飲料・たばこ】ミルク17　コーヒー16　ジュース15　コーラ12　お茶10　牛乳2　紅茶2　ビール2　カフェオレ1　酒1
資材	【資材】紙4、【木・石・金】ガラス2、【コード・縄・綱など】テープ1
物品	【物品】洗濯物4　物1　土産1

中項目「住居」分類項目【住居】の家は使用度70、分類項目【部屋・床・廊下・階段など】のサウナは41で、中項目全体の平均使用率を引き上げている。サウナは本間美奈子（2018）でも収集された編纂地に特化した語である。

中項目「道具」分類項目【文具】には、シャープペン・シャープペンシル、マジック・マジックペンのような語のバリエーションが提示されている。バリエーションは同じ課で提示されており、文体差を示す編纂方針によるものと言える。

中項目「食料」分類項目【料理】の黒パン、中項目「機械」分類項目【乗り物（陸上）】の市電は編纂地に特化した語である。

5-5. 自然物および自然現象

「自然物および自然現象」の名詞37語は、『EJ』の異なり語数591の6.3%を占めている。『EJ』における語の占有率が最も低い部門であるが、本間美奈子（2018）でも占有率が最も低い部門という結果が出ている。平均使用率の高い順に中項目を挙げると次表のようになる。

表９：自然物および自然現象の中項目の語数

中項目	動物	生命	天地	物資	植物	身体	自然	合計
異なり語	8	1	8	4	10	4	2	37
述べ語	136	17	66	29	47	10	5	310
平均使用率	17	17	8.25	7.25	4.7	2.5	2.5	8.38

中項目「動物」「生命」はともに平均使用率が17であり、『EJ』の中でも使用度の高い項目と言える。

表10：自然物および自然現象の名詞一覧

中項目	【分類項目】見出し語･使用度数
動物	【動物】動物3、【哺乳類】犬48　猫32　リス14　象6　ライオン2、【鳥類】鳥25　鶏6
生命	【生理】元気17
天地	【山野】山9、【川･湖】池7　川5　湖3、【海･島】海11　島1、【地相】森28　林2
物資	【鉱物】ダイヤモンド1、【雨･雪】雪6　雨5、【天気】天気17
植物	【植物】木16、【木本】リンゴ9　オレンジ2　桜1　白樺1　松1、【隠花植物】ライ麦4　バナナ1、【枝･葉･花･実】花10　くだもの2
身体	【身体】体1、【頭･目鼻･顔】鼻1、【皮･毛髪･羽毛】髪5、【骨･歯･爪･角･甲】歯3
自然	【光】オーロラ1、【色】ホワイト4

「自然物および自然現象」には編纂地に特化された語が多数含まれている。

たとえば、中項目「自然」分類項目【光】のオーロラ、中項目「天地」分類項目【川・湖】の池、川、湖、分類項目【地相】の森、林は編纂地の自然環境を説明するうえで欠かせない語である。また、中項目「植物」分類項目【木本】の白樺、中項目「動物」分類項目【哺乳類】のリスは編纂地にとっては日常的な語である。

中項目「動物」分類項目【哺乳類】の犬、猫は挿入語と判定される。

6．おわりに

本稿ではフィンランドで編纂された初級日本語教科書『Eläväät japania』の提示語を調査し、語に『分類語彙表』のコードを付与して意味分野に分類した語彙表を作成し、中道真木男（1983）が示した３点の基本性を参照し名詞の特徴を考察した。その結果､次のような特徴があることが明らかになった。

①文型を構成する語は、部門「抽象的関係」、部門「人間活動の主体」に集中している。

文型を構成する語は、導入後他の例文にも活用され使用度数が高くなっている。

②包摂関係の上位語が挿入語として多用されている。

たとえば､「教科書」や「辞典」より「本」の使用度が高い。この傾向は本間美奈子（2018）でも確認されており、初級教科書の提示語選択の特徴と考えられる。

③実用的な語は、教育対象者や編纂地の事情を基に選択されている。

たとえば、『EJ』には編纂地の都市名が多く提示されている。これらは他の教科書には見られない、編纂地に特化した語と言える。一方、日本で編纂された汎用型教科書を参考にしてフィンランドで編纂された『JK』には、日本の都市名が多く提示されている。教育対象者や編纂地によって実用的な語の選択の仕方が異なることが確認できた。

『EJ』は、文体差のある例文を複数提示している。たとえば、人称詞はバリエーションを豊富に提示することで、位相による人称詞の使い分けや待遇差を習得できるように編纂されている。結果として､単語の使用度が高くなり、

挿入語と実用語の差異の判定が難しくなっている。本稿で用いた判定基準は暫定的なものであり、他の教科書と対照する際には再検討が必要である。今後の課題としたい。

『EJ』の調査では姓名や会社名のような固有名詞が多数収集された。『分類語彙表』のコードを付与して意味分野に分類したところ、音声と表記の対応を認識させるための語が含まれていることが明らかになった。語彙調査では固有名詞を語彙表に提示しないのが一般的であるが、広い意味で語彙教育に必要な語であるため、今後は合わせて考察したい。

海外で編纂された日本語教科書は教育対象者が限定されており、教育対象者に適した提示語を選択している。引き続きフィンランドで編纂された教科書の調査を行い、提示語の実態を明らかにしたい。

［調査資料］

Okura, Junichiro (2011) “Elävää japania” 1　FINN LECTURA

［参考文献］

押尾和美・秋元美晴・武田明子ほか（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表作成にむけて」『日本語教育紀要』4　国際交流基金

国広哲弥（1970）『意味の諸相』三省堂

計量国語学会（2009）『計量国語学事典』朝倉書店

国際交流基金・日本国際教育支援協会（2006）『日本語能力試験 出題基準 改訂版』凡人社

国立国語研究所（1982）『日本語教育基本語彙七種 比較対照表』大蔵省印刷局

国立国語研究所（2004）『分類語彙表－増補改訂版』大日本図書

田島毓堂（1999）『比較語彙研究序説』笠間書院

田中章夫（1984）「基本語彙と基本語」『日本語学』3-2　明治書院

中道真木男（1983）「日本語教育の基本語彙とその辞書」『日本語学』2-6 明治書院

広瀬英史（2003）「基本教育語彙の意味領域－比較語彙論の方法によった意味分野別構造から－」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅳ』語彙研究会

広瀬英史（2007）「基幹語彙を利用した語彙研究（その３）－意味分野別構造分析法による分析（１）－」『語彙研究』5　語彙研究会

本間美奈子（2007）「フィンランドの日本語教科書『JAPANIN KIELI』の文法項目の検討－

「日本語能力試験3級・4級出題基準（文法）基礎資料」との対応から－」『國學院雑誌』108-9　國學院大學
本間美奈子（2018）「初級日本語教科書における基本語彙の検討―フィンランドで編纂された『JAPANIN KIELI』の名詞を中心に－」『國學院雑誌』119-3　國學院大學
水野マリ子・福井美佐（2003）「初級日本語教育における語彙教育について」『神戸大学留学生センター紀要』9　神戸大学